

2つの研究プロジェクトの 成果をいかした研修会を開催

こどもみらい館では、平成16年度に、「子育て支援」と「保育の質の向上と保幼小連携」をテーマとする研究プロジェクトを立ち上げました。第1期、第2期、第3期と積み上げ、平成28年6月から30年3月までの間、第4期に取り組んできました。両研究プロジェクト共に、これまでの成果をいかに発信していくかが大きな課題としてあがっており、今回、共同機構研修会の一つとして、発信できたことはとても嬉しいことです。

研修会の内容や受講された方のご意見などをお伝えします。



子育て支援研究プロジェクト報告会より

子どもの心の育ちの連続性研究プロジェクト報告会より



スーパーバイザー

鯨岡 峻 さん（京都大学名誉教授）

研究アドバイザー

大倉 得史 さん（京都大学大学院准教授）



気持ちに寄り添う子育て支援

子育て支援をテーマに、保護者の気持ちに寄り添うことについて、国公立・私立の保育園(所)・幼稚園・認定こども園の先生方でエピソードの検討等を重ねながら意見交換し、保護者自身を1人の主体として尊重し、ありのままの姿を認めることの重要性をパネリストから報告しました。また、今回作成した「親の気持ちを考えるためのミニエピソード集」を用いて、参加者でグループ討議を行い、共に学びあいました。

パネルディスカッション

パネリスト

(平成29年度末の所属です)

- 民営保育園
認定こども園 : 杉田 のり子 (メグミ幼稚園主任保育士)
市営保育所 : 渡邊 眞里子 (京都市楽只保育所副所長)
私立幼稚園 : 植田 眞千子 (佛教大学附属幼稚園教諭)
国公立幼稚園 : 高田 仁美 (京都市立翔鸞幼稚園教頭)

講評

スーパーバイザー

鯨岡 峻 さん
(京都大学名誉教授)

研究アドバイザー

大倉 得史 さん
(京都大学大学院准教授)

パネリストから

保護者に
心を寄せるには？

保護者の気持ちや思いに対して、支援者が分かってもらうこと、そして、自分ならどうかと相手の立場にたって考えることが大切だと思いました。

様々な親の見方や
心の引き出しを
広げたい！

懐深い見方ができるようになることで、様々な保護者の個々の気持ちに寄り添えることが分かりました。

懐深い支援を
広めたい！

作成したワーク集やエピソード集を使って話すことで、他者の意見を聞いて思っても見なかった視点を知ることが寄り添いの幅になると思います。

アンケートから

保護者の気持ちに共感するには、想像力が必要だという言葉にはっとしました。

保護者の気持ちに寄り添う際に立場や体調、家族背景、様々なことが考えられることを再認識しました。

ミニエピソードを使ってのグループワークはいろいろな見方が発見できてよかったです。エピソード集が上手く活用できたらいい。

事例検討は面白い。
いろんな人の話が聞けて良かった。

冊子

「あなたなら、どう寄り添いますか」

ワーク集とエピソード集を一冊にまとめています！

現在、
作成中です！



年度末に、各園(所)に送付予定

子どもの心の育ちを共有し 心を育む保育・教育を広げ、実践しよう

保育の質の向上と保幼小連携・接続をテーマに、国公立・私立の保育園(所)・幼稚園・認定こども園と小学校の先生方が集い、子どもの心の育ちについて語り合ってきた中から、互いに理解し合っていく過程や、子どもの心をつなげ、積み重ねていける連携、接続の実践例とポイント等についてパネリストの生の声で報告し、ワークを通して就学前の先生方と学校の先生方で語り合いました。

パネルディスカッション

パネリスト

(平成29年度末の所属です)

- | | | |
|--------|----------|------------------|
| 民営保育園 | ： 押領司 敬子 | (白菊こども園指導保育教諭) |
| 認定こども園 | ： 小泉 公平 | (京都市辰巳保育所保育士) |
| 市営保育所 | ： 田中 康雄 | (光明幼稚園副園長) |
| 私立幼稚園 | ： 外園 知子 | (京都市立中京もえぎ幼稚園教頭) |
| 国公立幼稚園 | ： 坪田 由希子 | (京都市立明德小学校教諭) |

コーディネーター

岸田 蘭子 (京都市立高倉小学校長)



講評

スーパーバイザー

鯨岡 峻 さん (京都大学名誉教授)

乳幼児期に大切にしなければならないこと、小学校につなげていきたいと考えることはたくさんあります。けれど、その中で一番大切にしたいのは、

「子どもの心の育ち」だと思います。

園の先生も小学校の先生も、子どもの心を大切にしたいと思っています。でも、どのような育ちを「心の育ち」と捉えているのでしょうか。

そのためには、互いを知る事が第一歩。具体的な子どもの姿を語り合う中で、保育と教育、それぞれに大切にしたいと思っていることや願いなどが伝わり合いました。園の先生はこれからの育ちを知ること、学校の先生はこれまでの育ちを知ること、自らの保育・教育を振り返り、見直していくことが大切だと感じています。

アンケートから

グループワークで小学校の先生と話し合い、思いや願いの共有ができたことが嬉しかったです。心の育ちをつなげられるよう働きかけていきたいです。(園の先生)

園の先生方とお話する機会がなかなかないので貴重な時間でした。このような機会がもっとあればいいなと思いました。(学校の先生)

小学校の先生の生の声を聞くことができ、問題点ではなく、保幼小接続のメリットを感じながら、共に子どもの心の育ちを見ていく者として同じ方向を向いて連携し、子どもとかわっていくことが大切だと感じました。(園の先生)

今日教えていただいたことやワークをもとに、園への連絡をとることを実践していこうと思いました。子どもたち一人ひとりを大切に、受け入れることも改めてきちんと取り組みたいです。(学校の先生)

講評でお話された「心の二面性」はとても良かったです。それが人間だということを心に留め、改めて学校教育にかかわっていきたいと思います。本当に感動しました。(学校の先生)

ちょこっと

保幼小連携・接続 ハンドブック
年度末に増刷
各園所校に送付予定

保育する営みにおける「教育の働き」を考える

講師 鯨岡 峻 京都大学名誉教授

私は、保育する営みを「保育する」という動態で考えたいと思っています。「保育」という名詞でものを考えようとすると、どうしても「何歳児に何をさせるか」というように、保育者の実践が向けられる対象領域を考え、それを年齢毎に配列するカリキュラム的な発想に自然に傾いてしまいます。けれども、子どもは生活や遊びの中で、自分の興味や関心や欲求を追い求めようとする「自己充実欲求」と誰かと気持ちを繋いで安心感や満足感を得たいと思う「繋合希求欲求」の2つの根源的な欲求の間で、ありとあらゆる喜怒哀楽の心の動きに翻弄されて生きています。一人の子どもを動態として見るとき、正負両面にわたるその心の動きを捉えようとしなければ、一人の子どものまるごとを理解することができません。大人が子どもの様々な思いを受け止め、その存在を肯定的に認める「養護の働き」の中で、子どもは受け止め認めてもらった喜びを梃子に、自分の内部に前向きな気持ちが動き始めます。そのとき大人はその前向きな気持ちがさらにはっきりしたものになるように、また大人の願いに近づいていってくれるように、誘う、導く、教える、伝えるといった様々なかたちで働きかけます。これが「教育の働き」です。それが動態としての保育者の「いま、ここ」での対応の中身であり、保育する営みは「養護の働き」と「教育の働き」を一体として子どもに振り向ける営みであると考えます。「教育の働き」とは、決して大人主導の一方的な「させる」働きかけや「教え込む」働きかけではありません。いま世の中は「教育の働き」が強ければ強いほど、また教える中身が多ければ多いほど、子どもの成長を早め、一人前に早く近づけるようになるかのような誤った思い込みが横行しています。少な過ぎれば子どもの成長の可能性を引き出せませんが、多過ぎれば子どもの成長を疎外するという自己矛盾を十分に考えていないところから生まれる思い込みです。この逆説は、「教育の働き」を考えるときに忘れてはならないこととして銘記しておく必要があります。ぜひとも「保育する」という動態としての営みに目を向けて、子どもや保育者の実際の心の動きに目を向けていただきたいと思います。

講義の詳細は、要録ページをご覧ください。 [要録ページへ](#)



～共同機構研修を DVDでご覧いただけます～

こどもみらい館では、講師の方のご了解をいただき、講演内容のDVD・ビデオを職員研修に限って貸し出しています。こどもみらい館ホームページ (<http://www.kodomomirai.or.jp>) をご覧になるか、総務課 (tel.254-5001) までお問い合わせください。

また、過年度(平成16年度～)に開催した講義のDVDもご覧いただけます。HPから各年度ごとの貸し出しDVD一覧をご覧ください。

平成30年度のDVD

- ◎ 鯨岡 峻
京都大学名誉教授
【保育する営みにおける「教育の働き」を考える】
(4月25日実施分)
- ◎ 井桁 容子
元東京家政大学ナースリールーム主任
【0・1・2歳児のココロを読みとく保育のまなざし】
(5月16日実施分)

貸出方法

1. 電話で借りるDVDの予約をします。
2. DVDを受け取る際には利用申込書を提出して下さい。
3. 一度に5本まで、期間は1ヶ月借りることができます。
4. 利用報告書を添えて返却してください。

詳しい方法や必要な用紙はこどもみらい館HP共同機構研修のページをご覧ください。



子どもを育む喜びを感じ、
親も育ち学べる取組を進めます。
(「京都はぐくみ憲章」より)

この印刷物が不要に
なれば「雑がみ」と
して古紙回収等へ!



発行日 平成30年9月20日
 発行者 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館
 〒604-0883 中京区間之町通竹屋町下る楠町601-1
 Tel (075)254-5001 Fax (075)212-9909
 URL <http://www.kodomomirai.or.jp>